

授業改善と子供たちの様子
— 第2学年 体づくり運動「ボールゲーム」の学習を終えて —

今回の授業づくりを通して目指した「子供の姿」

- 自分がやりたいと思う運動遊びに取り組んでいる。
- 友達と一緒に活動し、友達のよいところを見付けて声をかけている。
- 運動の楽しさや、動きを工夫することの楽しさを感じながら運動している。

研究協議会を経て改善したこと

- ◇ゲーム中の子供は、自分の動きに集中しており、友達のよいところを見付けて声をかけるのが難しかった。そのため、教師が子供のよいところやよい動きのこつを声掛けを率先して行った。
- ◇子供たちが運動に取り組む場面で、教師が「足の横を使って蹴っているね。」「的をよく見て狙っているね。」などと、工夫の例の声掛けを、重点的に行った。
- ◇前時に子供たちが見付けたこつを、掲示資料に書き込んで、子供たちに示した。
- ◇授業の開始時に、子供たちに、「前の時間に、それぞれの場での動きの中での、たくさん点をとれる工夫はあったか」を問い、それぞれの場での「動きの工夫の仕方」を、全員で確認した。
- ◇「動きの工夫の仕方」を確認する際には、具体的な動き方や動きの例を示した。
- ◇振り返りの場面で、「どんなふうに蹴ったらたくさん点がとれた？」と聞いた際、言葉と動きで発表できるようにした。

改善後の子供たちの姿

- ◎教師の働きかけにより、子供たちから「それやってみよう！」という声が聞かれ、友達と一緒に動きを工夫する姿が、前時より多く見られた。
- ◎動きのこつの掲示物を分かりやすく整理することで、こつには「自分で行うこつ」と「みんなで行うこつ」二通りのやり方があることを子供自身で発見することができた。
- ◎「友達のこつをまねしたら、たくさんの的に当たった。」「みんなで協力したら、こんな動きが考えられた。」と感じる子供が見られ、子供たちの動きが発展していった。
このようなことから、子供たちが運動に取り組む姿は、前時よりも活発になった。

授業者の振り返り <第2学年3組担任>

- 単元を通してストーリー性をもたせたことにより、子供が楽しんで活動している姿が見られた。
- 「攻め・守り・得点を数える」という役割分担を無くし、相互審判にすることで、全員がプレーヤーとして参加できる形のゲームにした。子供一人一人がボールに触れる時間が増え、運動の特性を十分に味わうことができた。
- グループ同士の勝ち負けのみではなく、協力型の活動を取り入れた。そうすることで、勝ち負けにこだわりすぎてしまう子供も、友達と協力しながら運動する楽しさを感じていた。
- 授業の中での教師の言葉掛けが、子供の動きを活性化させる手だてとなることを学んだ。そのため、教師自身が動きのこつを十分に把握しておく必要がある。